

◇第1回 経済地理学会賞選考結果について◇

経済地理学会賞選考委員会

受賞者名：外川健一

受賞著作：『自動車とリサイクル——自動車産業の静脈部に関する経済地理学的研究』（日刊自動車新聞社，2001年，388ページ）

受賞理由

20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業組織のもとで、様々なかたちの環境問題が、解決を迫られる大きな課題になった。動物の循環系のメカニズムを産業界に置き換えて、生産に関わる産業を「動脈産業」とし、廃棄物処理・リサイクルに関わる産業を「静脈産業」として、後者の育成とそのための分析が急務であるとする論調がしばしば見受けられるようになった。しかしながら、静脈産業に関しては統計をはじめとする資料が十分でなく、またその処理が複雑で厄介であることに加えて、調査にも多くの困難が伴うために、経済諸科学における研究は、「動脈産業」のそれに比して不十分であった。これまでの経済地理学において、生物系資源循環に関しては、土壌及び水循環の地域性との関連で「静脈産業」に対する注目がある程度なされてきた。一方、著者は、化石燃料など枯渇性の鉱物資源を大量に投入して人間と自然とのあいだの物質代謝を攪乱している重化学工業に注目し、なかでも日本のリーディング産業のひとつであり、またそのリサイクル政策が、産業政策と環境政策の接点の考察に重要な示唆を与えるという観点から、自動車産業における静脈部の経済地理学的研究をおこない、先駆的と呼ぶにふさわしい豊かな成果をおさめたのである。

受賞著作の中心部をなす第3章から第6章において、著者は、自動車産業の販売段階（中古車）、使用段階（修理・整備）、廃車段階（解体・中古部品・スクラップ）、さらに廃タイヤを加えたそれぞれの段階の静脈系統を、立地についてのみでなく、産業間および地域間リンクエッジをも視野に入れて分析して、斯学にとって画期的価値を持ついくつかの知見と、今後の産業政策と環境政策にとって貴重な多くの資料をもたらした。

さらに著者は第7章から第10章までにおいて、国際比較・地域比較をおこない、EU諸国、韓国・台湾そして日本の離島などの事例の分析をふまえて、日本の自動車リサイクル政策のあり方にも言及している。日本の自動車産業においては、これまで動脈部（製造ネットワーク）と静脈部（廃車解体ネットワーク）との交流がほとんどなく、むしろ深刻な既得権益の対立があったが、今や動脈部の静脈部への関与が必要であること、静脈部でうみだされたものを動脈部の流れのなかで活用していく連鎖をつくりだすためには、物質の循環ごとの最適な（地域的）範囲設定が必要であることなどの指摘は、経済地理学の政策科学としての有効性を示したものとしても高く評価される。

以上の理由により、経済地理学会賞選考委員会は、受賞著作が、内規第2条で規定される対象著作のなかで最もすぐれたものであると判断し、外川健一会員を第一回経済地理学会賞受賞候補者として推薦する。

経済地理学会賞選考委員会：竹内啓一（委員長）、上野和彦（幹事）、石原照敏、伊東維年、合田昭二、中藤康俊、

森川 洋